

2022年3月期 第2四半期決算概要

- 当第2四半期業績は、四半期、累計とも前年比、大幅増収増益。上期実績は予想を上回る。半導体等部品不足やエネルギー価格高騰の影響を、値上げやコスト削減で吸収し、黒字継続
- 通期業績予想は、今後の市場環境の不透明感を踏まえ変更せず。追加コスト削減も実施し、3期ぶりの通期純利益を目指す
- 「リバイバル計画 24 (RP24)」に基づく構造改革の諸施策は順調に進捗。一方、サステナビリティ推進に向け、TCFD 賛同を表明。改訂コーポレートガバナンス・コードに対応し、東証プライム市場への移行を選択

1. 2022年3月期 第2四半期決算

- 第2四半期（7-9月期）の売上高は1,430億円（前年同期比+134億円、+10.3%）、営業利益は55億円（同+17億円）と黒字基調継続。自動車の半導体等部品不足、欧州の天然ガスを中心とした原燃料費高騰の影響を、建築用（欧州）ガラスの値上げや、全社的なコスト削減で吸収
- 上期累計の売上高は2,907億円（前年同期比+692億円、+31.2%）、営業利益は127億円（同+95億円）。バッテリーセパレーター事業譲渡等による個別開示項目利益の計上もあり、純利益は86億円（同+259億円）。売上、利益ともに前年同期から大きく改善し第1四半期決算時に上方修正した上期業績予想を上回る
- 好調な事業業績等により自己資本比率は10.4%（前期末比+2.8pt）と10%超まで回復

<損益計算書および財務指標>

(億円)	7-9月期（3か月）			累計（6か月）			上期業績 予想
	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	2021年 3月期	2022年 3月期	差異	
売上高	1,296	1,430	134	2,215	2,907	692	2,800
営業利益	38	55	17	32	127	95	120
営業利益率	2.9%	3.9%	+1.0pt	1.4%	4.4%	+3.0pt	4.3%
個別開示項目(COVID-19関連)	△ 13	-	13	△ 128	-	128	-
COVID-19関連個別開示項目後 営業利益（△損失）	25	55	30	△ 96	127	223	120
個別開示項目(その他)	△ 8	47	55	△ 8	45	53	50
個別開示項目後営業利益（△損失）	17	102	85	△ 104	172	276	170
金融費用(純額)	△ 30	△ 29	1	△ 54	△ 58	△ 4	△ 60
持分法による投資損益	2	19	17	△ 2	33	35	20
税引前利益（△損失）	△ 11	92	103	△ 160	147	307	130
当期利益（△損失）	△ 7	67	74	△ 172	96	268	90
純利益（△損失）*	△ 9	61	70	△ 173	86	259	80
EBITDA	127	146	20	188	311	123	
フリー・キャッシュ・フロー	125	82	△ 43	△ 342	△ 14	328	

*親会社の所有者に帰属する当期利益（△損失）

(億円)	2021年 3月末	2021年 9月末	増減
総資産	8,250	8,292	42
親会社の所有者に帰属する持分	629	865	236
自己資本比率 (%)	7.6%	10.4%	2.8pt

<各事業の概況>

建築用ガラス事業	欧州の好調継続に加え、アジア・米州でも大幅に売上回復。欧州では供給能力を上回る需要により販売数量および価格が上昇。エネルギーコスト高騰影響を受けるが営業利益は大きく改善し、2020/3期実績を上回る。 太陽電池パネル用ガラスの需要も引き続き堅調
自動車用ガラス事業	7-9月期は半導体等部品不足による自動車生産制約の影響で減収減益ながら、累計では4-6月期にCOVID-19影響を大きく受けた前年から改善、増収増益
高機能ガラス事業	COVID-19の影響があった前年からの事業環境改善が継続、2020年3月期対比でも増収増益を達成。 特に在宅勤務、オンライン授業向けにプリンター需要が増加、プリンター用レンズは好調維持。 バッテリーセパレーター事業の譲渡は9月1日に完了

(億円)	2021年3月期		2022年3月期		前年同期比	
	7-9月期	累計	7-9月期	累計	7-9月期	累計
売上高						
建築用ガラス事業	542	991	675	1,320	133	329
自動車用ガラス事業	666	1,053	643	1,352	△ 23	299
高機能ガラス事業	84	165	103	217	19	52
その他	4	6	8	18	4	12
売上高合計	1,296	2,215	1,430	2,907	134	692
営業利益						
建築用ガラス事業	46	73	75	136	29	64
自動車用ガラス事業	5	△ 24	△ 23	△ 11	△ 28	13
高機能ガラス事業	11	25	29	57	18	32
その他	△ 24	△ 42	△ 25	△ 56	△ 1	△ 14
営業利益合計	38	32	55	127	17	95

2. 2022年3月期 通期業績予想

- 上期実績は前回予想を上回るも、投入コスト増加や半導体等部品不足など、今後の市場環境を踏まえ、通期業績予想は変更せず。コスト削減の効果もあり、全事業で増収増益の想定
- 建築用ガラスは、欧州を中心にエネルギー価格高騰の影響を受けるが、良好な需給環境が継続
- 自動車用ガラスは、自動車需要は堅調ながら半導体等部品不足の解消タイミングは不透明、追加コスト削減を実施
- 高機能ガラスは事業環境が改善

<業績予想>

(億円)	2022年3月期 上期予想 (前回)	2022年3月期 上期実績	2022年3月期 通期予想 (変更なし)	2021年3月期 通期実績
売上高	2,800	2,907	5,600	4,992
営業利益	120	127	240	131
COVID関連個別開示項目後 営業利益	120	127	240	△ 30
個別開示項目 (その他)	50	45	50	△ 53
個別開示項目後営業利益	170	172	290	△ 83
金融費用 (純額)	△ 60	△ 58	△ 130	△ 110
持分法による投資損益	20	33	30	21
税引前利益	130	147	190	△ 172
当期利益	90	96	120	△ 163
純利益*	80	86	100	△ 169

*親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)

3. RP24 に基づく構造改革施策の進捗

- コスト構造改革: 人員削減およびコスト削減が進捗。自動車用ガラス事業で追加コスト削減を開始
- 事業構造改革: 太陽電池パネル用ガラスが収益寄与と同時に CO2 削減に貢献。
建設中のアルゼンチン新フロート窯は、23/3 期の早い段階で本格稼働を目指す。
成長分野への新製品供給や用途範囲の拡大などの取り組み実施
- 事業ポートフォリオ変革: バッテリーセパレーター事業譲渡は 9 月 1 日に完了

4. サステナビリティの推進 (TCFD 提言賛同表明、東証プライム市場移行選択)

- 環境: TCFD 提言への賛同表明。
再生可能エネルギーを主体としたガラス製造工程の技術開発を加速、
カーボンニュートラルへの具体的なロードマップを早期に策定
- 社会: 企業の中核人材の多様性確保に向け、グローバルで女性管理職比率向上の目標を設定など、
「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)」の取り組み強化
- ガバナンス: 従前から指名委員会等設置会社、現在、取締役会の過半数が独立社外取締役。
取締役会の多様性確保など、今後、さらなる機能発揮に向けた取り組みを実施
- 上記取り組みは、改訂コーポレートガバナンス・コードが要請する非財務面も含めた持続可能性、企業価値の向上を促進する方向性とも合致、多くの原則は既に当社グループにおいて対応済
- 本日東証「プライム市場」への移行選択、東証への申請を決議

「Our Vision」と「重要課題 (マテリアリティ)」



当社の取り組み (TCFD、改訂コーポレートガバナンス・コード)

環境 (サステナビリティを巡る課題への取り組み)

- ・SBTi (Science Based Targets initiative) 認定、CDP 開示に加え、TCFD賛同表明、TCFDコンソーシアム入会 (本日付ニュースリリースご参照)
- ・サステナビリティ基本方針策定

社会 (企業の中核人材の多様性確保)

- ・「インクルージョン&ダイバーシティ (I&D)」への取り組みをグローバルで強化

ガバナンス (取締役会の機能発揮)

- ・改訂コーポレートガバナンス・コードが要請する「会社の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を促し、収益力・資本効率等の改善を図る」取締役会
- ・①独立社外取締役を過半数選任、②取締役会の多様性確保、③取締役スキルマトリックス作成、④指名委員会、報酬委員会設置

東証プライム市場への移行

- ・改訂コーポレートガバナンス・コードに対応 (12月までに報告書提出予定)

<お問い合わせ> 広報部 Tel : 03-5443-0100